



欄に数値またはコメントを記入

<b>1. 建物概要</b>						
建物名称	浜松ホトニクス株式会社豊岡製作所第11棟	BEE	1.7	BEEランク	A	★★★★

<b>2. 重点項目への取組み度</b>						
重点項目	得点*/満点	取組み度	評価			
"ふじのくに地球温暖化対策実行計画"の推進 (Global Warming)	3.6	/5				ふつう
"災害に強いしずおか"の形成 (Disaster)	3.1	/5				ふつう
"しずおかユニバーサルデザイン"の推進 (Universal Design)	3.0	/5				ふつう
"緑化及び自然景観"の保全・回復 (Nature)	3.0	/5				ふつう
※対応するCASBEEのスコア(平均)を5点満点で表示します。(スコア1.0=1点、スコア5.0=5点)		評価 凡例	よい 4 点以上	ふつう 3 点以上	がんばろう 3 点未満	

<b>3. 重点項目についての環境配慮概要</b>			内訳対応項目			
各項目について配慮した内容を、該当する番号(①~)を示し記述してください。						
<b>"ふじのくに地球温暖化対策実行計画"の推進(Global Warming)</b>			得点		3.6	
	<b>■室内環境対策</b> (①室温制御/②昼光対策/③グレア対策/④部品・部材の耐用年数) ①外床部断熱材 U=0.43 ④外壁材にフッ素樹脂塗装鋼板を採用。 ④空調ダクト材質にステンレス、亜鉛鉄板を採用。	Q-1 2 2.1 2.12 ① Q-1 3 3.1 3.13 ② 3.2 3.2.1 ③ Q-2 2 2.2 2.2.1 ④ 2.2.2 ④ 2.2.3 ④ 2.2.4 ④ 2.2.5 ④ 2.2.6 ④	① 外皮性能 ② 昼光利用設備 ③ 昼光制御 ④ 躯体材料の耐用年数 ④ 外壁仕上げ材の補修必要間隔 ④ 主要内装仕上げ材の更新必要間隔 ④ 空調換気ダクトの更新必要間隔 ④ 空調・給排水配管の更新必要間隔 ④ 主要設備機器の更新必要間隔			
	<b>■室外環境(敷地内)対策</b> (⑤生物環境の保全と創出/⑥敷地内温熱環境の向上) ⑤外構計画により外構緑地指数41%を確保した。 ⑥緑地の緑が連続するような外構植栽計画を行った。	Q-3 1 3 3.2	⑤ 生物環境の保全と創出 ⑥ 敷地内温熱環境の向上			
	<b>■エネルギー対策</b> (⑦建物外皮の熱負荷抑制/⑧自然エネルギー利用/⑨設備システムの高効率化/⑩効率的運用) ⑨LED照明の採用。高効率空調機の導入。	LR-1 1 2 3 4 4.1 4.2	⑦ 建物外皮の熱負荷抑制 ⑧ 自然エネルギー利用 ⑨ 設備システムの高効率化 ⑩ モニタリング ⑩ 運用管理体制			
	<b>■資源・マテリアル対策</b> (⑪水資源保護/⑫非再生性資源の使用量削減/⑬汚染物質含有材料の使用回避) ⑪雨水・中水利用による雑排水等の有効利用。 ⑫躯体材料以外にエコマーク製品の採用。 ⑬躯体と仕上げ材が容易に分別可能となっている。	LR-2 1 1.1 1.2 1.2.1 1.2.2 ⑪ 2 2.1 2.2 ⑫ 2.3 ⑫ 2.4 ⑫ 2.5 ⑫ 2.6 ⑫ 3 3.1 3.2 3.2.1 3.2.2 ⑬ 3.2.3 ⑬	⑪ 節水 ⑪ 雨水利用システム導入の有無 ⑪ 雑排水等利用システム導入の有無 ⑫ 材料使用量の削減 ⑫ 既存建築躯体等の継続使用 ⑫ 躯体材料におけるリサイクル材の使用 ⑫ 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用 ⑫ 持続可能な森林から産出された木材 ⑫ 部材の再利用可能性向上への取組み ⑬ 有害物質を含まない材料の使用 ⑬ 消火剤 ⑬ 断熱材 ⑬ 冷媒			
<b>■敷地外環境対策</b> (⑭地球温暖化への配慮/⑮温熱環境悪化の改善) ⑭ライフサイクルCO2排出率73% ⑮敷地内建物配置計画により、隣棟間隔指標Rw=1.37 ⑮緑地計画により緑地を確保する事により、地表面対策面積率37%	LR-3 1 2 2.2	⑭ 地球温暖化への配慮 ⑮ 温熱環境悪化の改善				
<b>"災害に強いしずおか"の形成(Disaster)</b>			得点		3.1	
	<b>■サービス性能対策</b> (⑯耐震・免震/⑰信頼性) ⑰空調機器の二重化、バックアップを行っている。 ⑰地震時の被害対策として、吊り配管を行っている。	Q-2 2 2.1 2.1.1 ⑯ 2.1.2 ⑯ 2.4 2.4.1 ⑰ 2.4.2 ⑰ 2.4.3 ⑰ 2.4.4 ⑰ 2.4.5 ⑰	⑯ 耐震性 ⑯ 免震・制振性能 ⑰ 空調・換気設備 ⑰ 給排水・衛生設備 ⑰ 電気設備 ⑰ 機械・配管支持方法 ⑰ 通信・情報設備			
<b>"しずおかユニバーサルデザイン"の推進(Universal Design)</b>			得点		3.0	
	<b>■サービス性能対策</b> (⑱機能性・使いやすさ/⑲心理性・快適性/⑳空間のゆとり) ⑳階高を高く取り、設備更新性を高めている。	Q-2 1 1.1 1.1.3 ⑱ 3 3.1 3.1.1 ⑲ 3.1.2 ⑲	⑱ ユニバーサルデザイン計画 ⑲ 階高のゆとり ⑲ 空間の形状・自由さ			
<b>■室外環境(敷地内)対策</b> (㉑地域性・アメニティへの配慮) ㉑防犯カメラの設置、防犯性に配慮した計画を行っている。	Q-3 3 3.1	㉑ 地域性への配慮、快適性の向上				
<b>"緑化及び自然景観"の保全・回復(Nature)</b>			得点		3.0	
	<b>■室外環境(敷地内)対策</b> (⑳生物環境の保全と創出/㉒まちなみ・景観への配慮/㉓敷地内温熱環境の向上) ⑳外構計画により外構緑地指数41%を確保した。 ㉓緑地の緑が連続するような外構植栽計画を行った。	Q-3 1 2 3 3.2	㉓ 生物環境の保全と創出 ㉒ まちなみ景観への配慮 ㉓ 敷地内温熱環境の向上			
<b>■敷地外環境対策</b> (㉔持続可能な森林から産出された木材/㉕温熱環境悪化の改善) ㉕敷地内建物配置計画により、隣棟間隔指標Rw=1.37 ㉕緑地計画により緑地を確保する事により、地表面対策面積率37%	LR-2 2 2.5 LR-3 2 2.2	㉔ 持続可能な森林から産出された木材 ㉕ 温熱環境悪化の改善				

# CASBEE<sup>®</sup>-建築(新築)

## 評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版 ■使用評価ソフト: CASBEE-BD\_NC\_2016(v4.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	浜松ホトニクス株式会社豊岡製作所第3	階数	地上5F
建設地	静岡県磐田市下神増498-1、499-1、	構造	S造
用途地域	商業地域、防火地域	平均居住人員	240 人
地域区分	7地域	年間使用時間	2,200 時間/年(想定値)
建物用途	事務所、工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2023年1月 予定	評価の実施日	2021年5月31日
敷地面積	14,943 m <sup>2</sup>	作成者	株式会社竹下一級建築士事務所
建築面積	7,048 m <sup>2</sup>	確認日	-
延床面積	24,138 m <sup>2</sup>	確認者	-



### 2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

**BEE = 1.7**

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

### 2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub>(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 100%  
②建築物の取組み 73%  
③上記+②以外のオンサイト手法 73%  
④上記+オフサイト手法 73%

0 46 92 138 (kg-CO<sub>2</sub>/年・m<sup>2</sup>)

### 2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

### 2-4 中項目の評価(バーチャート)

**Q のスコア = 3.0**

#### Q1 室内環境

Q1のスコア= 2.9

#### Q2 サービス性能

Q2のスコア= 3.3

#### Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア= 3.0

**LR のスコア = 3.8**

#### LR1 エネルギー

LR1のスコア= 4.2

#### LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア= 3.5

#### LR3 敷地外環境

LR3のスコア= 3.5

3 設計上の配慮事項		
<p><b>総合</b></p> <p>これはCASBEE静岡(2016年版)による評価結果です。敷地周囲からセットバックし緑地を設けることで景観に配慮し、太陽光発電パネルによる自然エネルギーの活用をしている。また、準備スペースの確保や階高を高くし、設備機器の更新性を高めた建物としている。</p>		<p>その他</p> <p>0</p>
<p><b>Q1 室内環境</b></p> <p>建物全館を禁煙とし、建材として全面的にF☆☆☆☆建材を採用する事と、換気排気口と給気口を汚染源の無い方に6m以上離して設置し空気室環境に配慮を行っている。また、室内照度を500lxとして</p>	<p><b>Q2 サービス性能</b></p> <p>執務スペースに対して十分なリフレッシュスペースを設けており、仕上げ材、空調ダクトについては更新必要間隔に配慮した部材を採用している。また、階高にゆとりを持たせ高い天井内を確保する事で設備更新性に配慮している。</p>	<p><b>Q3 室外環境(敷地内)</b></p> <p>食堂に隣接したバルコニーを設け、風や光が通り抜ける開放的な空間を設けている。また、防犯カメラの設置する事で、防犯性に配慮した計画を行っている。</p>
<p><b>LR1 エネルギー</b></p> <p>高効率空調機の導入し、LED照明の採用する事で省エネルギー性能を高めている。(設備システムの高効率化 BEI=0.62)</p>	<p><b>LR2 資源・マテリアル</b></p> <p>外壁材・躯体材料を部材として再利用可能性向上を考えた計画とし、躯体以外の材料にリサイクル材を採用している。また、中水として雑排水を利用している。</p>	<p><b>LR3 敷地外環境</b></p> <p>広告照明を行っていない。</p>

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 ■評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される  
 ■LCCO<sub>2</sub>の算定条件等については、「LCCO<sub>2</sub>算定条件シート」を参照されたい